

愛知) ICT教育で園児生き生き 名古屋市の慶和幼稚園

日高奈緒 2017年6月23日03時00分



i P a dのアプリを使って身の周りの色を探す園児たち
=名古屋市港区の慶和幼稚園



就学前から情報通信技術（ICT）に親しんでもらおうと、名古屋市港区の慶和幼稚園がタブレット端末のアプリを使った教育を取り入れている。子どもたちの創造力を伸ばしつつ、ITスキルを身につける教育に注目が集まっている。

今月中旬、同園では年長組の25人が2～3人でチームを組み、タブレット端末「i P a d」に向かい合っていた。

「まずはボタンを2回押して、i P a dを起こしてあげようね」

そう呼びかけたのは、知育アプリの開発・販売を手がける「スマートエデュケーション」（東京都品川区）の池谷大吾社長

（41）。この日、子どもたちは同社が開発したアプリを使い、決められた色を周りから探して、絵を描く課題に取り組んだ。

「黄色、あった！」

チームでホールや教室を歩き回り、赤や青、黄といった色を見つけると、i P a dで写真を撮った。先生のエプロンやザリガニの餌のパッケージなど、大人が思いもしない場所から色を見つけ出した。

アプリでは、子どもたちの写真をネットワーク上で共有。写真をステンドグラス風アートの1ピースに見立て、動物の絵が完成する。絵がスクリーンに映し出されると、子供たちから歓声が上がった。

取り組みを見学した保護者の岡本有香さん（35）＝名古屋市港区＝は「家ではちゃんとした使い方を教えられないので、幼稚園でこういう活動があると助かります」と話していた。

1924（大正13）年創立の同園は、今年4月、同社のアプリを含むカリキュラム「こどもモードK i t S（キット）」を県内の幼稚園で初めて導入した。長年受け継がれてきた教育課程を重視してきたが、「子どもたちが大きくなった頃に必要なスキル」と取り組み始めた。

カリキュラムを監修した愛知淑徳大学の佐藤朝美准教授（教育工学）は「子どものタブレット端末やスマホ利用は短所が強調されがちだが、幼児のうちに動画やゲームなどの娯楽ではなく、学習や創作活動での利用を経験することは大切だ」と話す。

個別にタブレットを使って作業するだけでなく、周りの友達と話し合ったり、アイデアを出し合ったりできるよう工夫されているという。池谷社長は「ICTもクレヨンやはさみなどと同じように、創造力を高めるツールとして考えて欲しい」と話している。（日高奈緒）

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。

Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.